

Report

会員の皆様を交えて推進会議を開催しました。

6月の総会に向け、今年度の事業計画をたてる前に、スタッフ以外の会員の皆様のご意見を伺う機会として「推進会議」を開催しました。

多くは、現在活動が広がつつある「笑学」や秋の開催を予定している「関西演芸しゃべくり話芸大賞」などのご案内や報告となりましたが、芸人さんの発言により演芸文化への取り組みへの課題定義がなされた他、新しく入会された会員の方との交流など有意義な意見交換ができました。



2013年4月17日(水)
於)SMG会議室
18:30~20:30



NPO法人関西演芸推進協議会 会報誌

笑ライブ 第17号

walive

2013年6月

「笑ライブ」とは… 「笑」、「商」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名称にしました。

発行

NPO法人関西演芸推進協議会
編集部
〈事務局〉大阪市浪速区難波中1-10-4
千房株式会社内
TEL.06-6633-1430
FAX.06-6633-1435
http://www.walive.org
info@walive.org

INFOMATION

会員の皆様には、いつも当協議会へのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
ゴールデンウィークまで寒かったのがウソのよう…季節は一気に夏へと移行しています。時節の移ろいに身を任せるように、協議会も7年目という新しい舞台の幕を上げました。少しずつ変わって来たこともありながら、趣旨である「芸人を育て、よりよき鑑賞者を育てる」という精神は変わりなく、継続して活動を推進してまいります。秋に予定している「第2回関西演芸しゃべくり話芸大賞」の開催や小学校へのコミュニケーション講座「笑学」での成果を実感しながら、永い演芸文化の旅は続きます。是非みなさまにお伴いただきたくお願い致します。

CONTENTS

☆笑魂塚法要	1頁
☆勉強会「生魂神社と大阪」	2頁
☆3D落語「落語鑑賞と断の舞台を巡る」	3頁
☆推進会議 ☆第2回関西しゃべくり話芸大賞のご案内 ☆「笑学」のご案内 他	4頁

笑魂塚法要 関西演芸協会主催

2013年5月25日(土)
於)成田山不動尊 笑魂塚
10:00~11:30

「お笑い文化を盛り上げた先人を敬い未来の上方演芸に繋ぎたい」

昭和34年に建立された「笑魂塚」には、笑福亭松鶴さんや藤山寛美さんら関西のお笑い文化を盛り上げた先人が眠っておられます。碑の背中には建立した際の関西演芸協会のメンバーの名前がずらりと彫っており、そうそうたる名前が並びます。そんな「笑魂塚」がある成田山不動尊にて関西演芸協会の恒例行事「笑魂塚法要」が行われ、当協議会からも約20名が参列いたしました。法要の行われた日は、晴天に恵まれた汗ばむ陽気。芸人さんや演芸関係者の方々が塚の前に集まり、先人を崇め、またこれからの演芸文化の清栄を祈り、美しい自然に囲まれた成田山不動尊は厳かともいえるお経が響きわたり、心洗われるひとときとなりました。

お経を頂いた後は、境内に設けられた座敷にてお齋が行われ、関西演芸協会の桂春団治師匠、同協会会長の桂福團治師匠からの御挨拶にはじまり、協会の芸人さんならではのユーモア溢れる挨拶や余興(?)を楽しませて頂きながら、交流の時間を共有させて頂きました。



笑魂塚



法要の様子



関西演芸協会会長 桂福團治師匠



法要後、関西演芸協会の皆様との交流がありました。



芸人さんならではの挨拶で席は和やかに…

第2回 関西演芸しゃべくり話芸大賞 優勝決定戦

「話芸とは、会話のおもしろさと言葉のおもしろさを磨き、芸にしたもの」



大会審査員

- 澤田 隆治 (メディアプロデューサー)
- 林 千代 (シナリオライター)
- 本多 正識 (漫才作家)
- 春野 恵子 (浪曲師)
- 中井 政嗣 (関西演芸推進協議会 専務理事)

審査委員長 澤田 隆治

<順不同>

INFOMATION

日程:平成25年10月19日(土)
会場:大丸心斎橋劇場 大丸心斎橋店北館14階
(大阪市中央区心斎橋筋1-7-1)
主催:NPO法人 関西演芸推進協議会
入場料:全席自由 会員・一般共2,000円
★チケットのお問い合わせ
TEL:06-6633-1430 (関西演芸しゃべくり話芸大賞実行委員会)



好評開催中!

笑学

漫才のワークショップでボケとツッコミ体感!
子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ります。

いじめや学級崩壊など教育現場では様々な問題がありますが、その原因の一つに子どもたちのコミュニケーション能力の不足があると私たちは考えています。伝えたいことをきちんと伝えることができるなどコミュニケーションがしっかり取れば、いじめにつながりそうな出来事も未然に解決されるのではないのでしょうか。そこで、まさにデジタル世代の小学生に対して、関西の演芸文化の真骨頂である漫才からボケとツッコミを体感してもらい、相手の話を聞き、話の展開を読む力や互いの信頼関係を構築していくアナログのコミュニケーション力「笑学」を体験できるワークショップを企画いたしました。この企画は、松竹芸能株式会社のご協力のもと、私たち関西演芸推進協議会のプロデュースにより実施しております。現在30校限定で無償にてワークショップを実施しております。

主催:特定非営利活動法人関西演芸推進協議会
協力:日本財団、松竹芸能株式会社、相互タクシー(株)、(株)小学館集英社プロダクション、ガイドドリンコ(株)、(株)寺岡精工、東京海上日動火災保険(株)、千房(株)
対象:大阪府下の小学校 (30校限定で募集中※応募校多数の場合は抽選にて決定)



関西の上質な演芸文化のために…

上方演芸の文化に触れ、共に育む活動を一緒にしませんか…

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思います。

公式ウェブサイトもご覧ください。http://www.walive.org

関西演芸推進協議会とは
文化庁の関西元氣文化圏事業
に参加しています。



編集後記 今年もうなぎが高いとか? 稚魚の生育が良くないとのこと。小さな命を如何に成魚に育てるかが問題で、うなぎのせいではなく、地球環境にも問題ありである。新聞記事では、うなぎ「禁漁」といった策もありとやら…。養殖うなぎも高値らしいし、夏のスタミナ源が今から心配。これから到来する夏本番に向けてカラダ、ココロ準備中です。(編集部・廣田)

Report 大阪の文学・芸能の歴史を学ぶ「勉強会」開催

レポート 滝北由子 (中村文隆氏 監修)

2013年3月12日(火)
於)大阪市立生涯学習センター
18:30~21:00

『生國魂神社と大阪』

本日の講義は「いくたまさん」の愛称で親しまれている『生國魂神社(いくたま神社)』からお越し頂きました。

講師の権禰宜(ごんねぎ) 中村文隆さんを初詣や上方落語協会主催の「彦八まつり」でお見かけしましたが、その折に召されていた装束姿とは違い、スーツ姿でご登壇。神職のかたをより身近に感じることが出来ました。

講義内容はいくたまさんのご由緒を軸として、第1代・神武天皇が難波崎の突端(なにわのみさき・現在の大阪城を含む一帯)に生國魂大神を祀られたことに始まる大阪2700年の歴史を一気に語られる。いくたまさんが大阪で最も古い神社であることを知った聴講者は深く聞き入りました。

いくたまさんの祭神は生島大神(いくしまのおおかみ)と足島大神(たるしまのおおかみ)の2柱。「生(いく)」は「生まれる」、「足(たる)」は「満ち足りる、成長する」という意味があり、大川と大和川から気の遠くなる年月を経て大量の砂礫が大阪湾に流れ込み、海中に堆積した砂から砂洲が生まれ、やがて島へと成長してゆく働きが神格化されたのです。この2柱1対の生國魂大神は別称「八十島神(やそしまがみ)」とも呼称し、八十島は幾多に島々が集まっていること、つまり日本列島の事をいい、この事からいくたまさんは日本列島そのものの神さまであることが分かります。現在でも大阪には中之島や柴島など「島」の付く地名が数多く点在し、あらゆる場所に太古の記憶が残されています。また本殿の建築様式は、「生國魂造(いくたまづくり)」と呼ばれ、全国80000社ある神社の中で他に類例を見ないものです。そのようないくたまさんの起源が大阪の歴史とリンクして展開されました。

しかし、内容は「いくたまさん」のことだけではなく、世界の宗教と歴史、大阪の地理や文化、あらゆる分野の知識や教養が百科事典のようでした。また、いくたまさんに縁のある蓮如上人や、織田信長、豊田秀吉を、中村さんの忠実で冴えた咀嚼で語られると、その人物が目の前に現れてくるようでワクワクしました。そして近代の文学に影響を与えた井原西鶴、近松門左衛門だけでなく、文豪・谷崎潤一郎や織田作之助が、いくたまさんと深い関わりがあることも知り驚きの連続でした。

講座の1時間半が経過した頃には、聴講者20代~70代の約100名の男女は、「中村さん」に、そして「いくたまさん」にしっかり心を掴まれていたように思います。

その後、聴講者は8つの班に分かれ、中村さんに尋ねたいことを話し合い、それぞれ代表者が質問しました。予定時刻も大幅に超過し、遂には会場閉館を知らせる音楽も流れましたが、誰ひとり帰ろうとはしません。最後に20代のかたの「神社はどんなところであるべきですか?」との問いに、「清潔なところでありたいと思います」と中村さん。私には『いくたまさんは日本の国の魂が生まれたところ。そこは清潔なところではなくてはならない』と聴こえました。

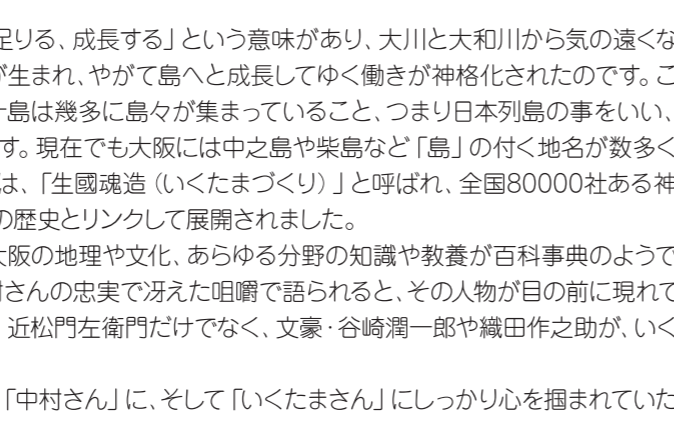
大阪には実に素晴らしく深い歴史や文化があります。が、それを伝える気概のあるかたがいらっしゃることこそ大事であり、その方々を支援していくことこそ私たちの役割ではないかと思うのです。



▲「生國魂造(いくたまづくり)」の本殿



▲生國魂神社は上方落語発祥の地



これから夏に向け、いくたまさんでは数々の祭事が執り行われます。代表的なものに7月中旬の“大阪の夏の三大まつり”のひとつ『いくたま夏祭』、8月中旬は野外での能楽『大阪薪能』、9月の初旬には落語家さんのお祭り『彦八まつり』。皆様どうか、それらを機にいくたまさんへお訪ねされてはいかがでしょうか。より大阪を身近に感じることが出来ると思います。



▲DRILL&DRILLのHPより

ご案内 レンタルスペース「DRILL&DRILL」

~当協議会、相談役の藤田富美恵さんのご子息、藤田曜さんの活動のご紹介です~
藤田曜さんは、大学在学中に読売テレビ・漫才作家集団「笑の会」に入り、祖父である秋田實さんと同じ漫才本を書き始められました。現在は主に舞台を中心に、台本制作&映像制作をする傍ら、若手芸人のネタのアドバイスやイベントのサポートを行う「漫才くらぶ」を主宰されるなど、幅広く活動されています。

また、なつかしい長屋文化が残る谷町で、築100年以上の長屋をリフォームしたギャラリー&レンタルスペースを運営。ワークショップやカルチャー教室、友達同士での作品発表など、いろいろな方にご利用していただけたら。靴をぬいで和やかに過ごせるスペースではさまざまなイベントも企画中とのことです。ご興味のある方はまずはHPをご覧ください。

- 漫才作家のホームページ <http://www.fujita-akira.com>
- gallery&rental space「DRILL&DRILL」 <http://www.drill-drill.com>

Report

噺の舞台が目につかぶ! 「3D落語」
上方落語の舞台を歩く

共催 ウェーブ産経
協力 イオン

2013年5月12日(日)
於)湊町リバープレイス~
大阪市西区界限
10:00~14:00

『上方落語散策・ミナミ版~花街と事件跡巡り』

今回で3回目、恒例行事となりつつある人気の企画イベント「3D落語」。上方落語の舞台を巡り、噺の臨場感を味わえて、様々な歴史背景を辿り歩く道中では、会員さんとのコミュニケーションもとれる楽しい行事です。

今回は笑福亭生喬さんの落語「ぞろぞろ」と「阿弥陀池」の二席を拝聴する前に史跡巡り。暑い中、約5kmのウォーキング『上方落語散策・ミナミ版~花街と事件跡巡り』でしたが、(株)劇団往来の小鉢さん、西川さんのナビゲート&解説で、史跡や噺の舞台と関連のあるスポット全9ヶ所を探訪しました。



笑福亭生喬さんの落語「ぞろぞろ」と「阿弥陀池」を鑑賞



落語「阿弥陀池」の舞台 和光寺の石碑



参加された方との会話もはずみでした。



参加された方との会話もはずみでした。



土佐藩邸の守護神として崇められた「土佐稲荷神社」



「道頓堀川氷門」開閉操作によって水質を浄化



「大地震両川口津波記」石碑 西道頓堀発電所跡地

上方、恐るべし! ~上方落語の舞台を歩く~

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会 倉田 清

5月12日の3D落語に参加された倉田さんに3D落語の感想を寄稿いただきました!

5月12日初夏を思わすような好天の休日、上方落語「阿弥陀池」と「ぞろぞろ」の舞台やその周辺史跡などを散策しました。

まずは「ぞろぞろ」の舞台「赤手拭稲荷神社」町中にある小さなお稲荷さん!しかし信ずればご利益多しということだろうと納得。近くの大正橋東詰の「大地震両川口津波記」の石碑には震えが来た。江戸時代大津波が来て、その被害甚大であったこととその150年前にも津波被害があり、教訓を生かせなかったこと。年月がたてば伝え聞く人は稀となり、忘れ去られることがないように災害を後世に語り継いで欲しいと記した碑である。昔の人は偉かった!ついでに「阿弥陀池」の舞台「和光寺」へ。元禄年間の創建で、観音堂や閻魔堂など諸堂整い、境内には店屋が軒を連ね門前には芝居が興行されるなど、それは賑わったとのこと。道中、土佐藩蔵屋敷跡に建つ「土佐稲荷神社」へも。

明治になって三菱の創始者岩崎彌太郎がこの土地を取得、三菱発祥の地となり、土佐稲荷神社は三菱の守護神ともなる。瓦にも三菱のマークが。その東隣には「西長堀アパート」旧住宅公団の高層アパート第1号、築56年で現役。家賃は当初1.6万円(当時大卒初任給1.4万円)住民には、森光子・司馬遼太郎・野村克也・石浜恒夫などもいたそう。湊町リバープレイスに戻り、笑福亭生喬師匠による「阿弥陀池」と「ぞろぞろ」を生鑑賞!大いに笑い、大いに上方の探索を楽しみ、上方の奥深さを知った一日でした。上方恐るべし!

おまけ
散策中に中井政嗣専務理事に「中井流おいしい食パンの食べ方」を教わった。トーストした食パンにたっぷりのバターを塗り、その上に「あんこ」を載せてかぶりつく!「旨いで~」とのこと。一度お試しあれ!